

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数は、21件で、この一年間報告が無い月はありませんでした。9月には山鹿、宇城、天草からの報告はありませんでした。

小児科定点

（全体傾向）

報告総数3,824件（前月比0.87、前年比0.97）と大きな変動はありませんでした。ただ疾患別では、RSウイルス感染症が例数で519→1,324、前月比2.6、前年比3.4と大きく増加しています。その他の疾患は、咽頭結膜熱（201→164、前月比0.8）、A群溶レン菌咽頭炎（214→157、前月比0.7）、感染性胃腸炎（1,104→872、前月比0.8）、水痘（60→46、前月比0.8）、手足口病（1,041→488、前月比0.5）、ヘルパンギーナ（767→331、前月比0.4）と概ね減少しています。

（疾患別傾向）

1. RSウイルス感染症 : 報告は1,324件で、阿蘇を除く全県下から報告があります。八代222件（定点あたり55.5）が最も多く、次いで菊池206件（定点あたり41.2）、人吉111件（定点あたり37.0）、宇城121件（定点あたり30.3）が次いでいます。県内6地区から三桁の報告があります。1歳・0歳を中心としてはいますが、6歳まで報告があります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数164件と、8月の201件から減少（前月比0.8）しましたが、例年より高い水準（前年比1.7）です。昨年末よりの増加傾向が続いています。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数157件（前月比0.7、前年比0.7）と、例年並みの推移に戻りました。これから冬に向け増加して行くものと思われます。6歳児が29件と最も多く、2歳～10歳の年齢層を中心とした報告です。熊本68件（定点当たり4.3）、菊池21件（同4.2）、有明21件（同4.2）、水俣8件（同4.0）に多いようです。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数872件（前月比0.8、前年比0.5）です。例年どおりの推移です。例年ですとこれから急に増加に転じますので注意が必要です。いつもと同様に年齢では1歳に140件とピークがありますが、幅広い報告です。地域別では、山鹿・菊池（定点あたり36.0）に多く、有明（同27.6）、八代（同24.5）、御船（同22.3）が続いています。水俣（0件）・阿蘇（9件）を除き二桁の報告数です。
5. 水痘 : 報告数46件（前月比0.8、前年比0.5）と、今年1月からの漸減傾向は続いています。菊池15件（定点あたり3.0）、八代7件（同1.8）、天草6件（同1.5）からの報告がやや多いようです。報告は4～5歳を中心とし、1歳に6件ありますが、0歳2件、2歳1件と年少児は減少してきており年長児の感染が残っているようです。山鹿・阿蘇・水俣・人吉・有明からの報告はありませんでした。
6. 手足口病 : 報告数488件（前月比0.5、前年比1.9）で、7月をピークとした流行も含めて例年どおりの推移で減少しています。人吉59件（定点あたり19.7）、水俣34件（同17.0）、菊池80件（同16.0）からの報告が多いようですが、全県下から報告があります。1歳時が209件で最多であり、2歳児90例ですが、0歳から5歳時まで幅広く報告があります。
7. 伝染性紅斑 : 報告数7件（前月比1.4、前年比0.5）と、昨年秋からの低水準が続いています。山鹿・菊池・有明・天草からの報告でした。
8. 突発性発疹 : 報告数106件（前月比0.8、前年比0.5）と、ほぼ例年並みの動きです。阿蘇・御船を除き県下から報告があります。

9. 百日咳 : 菊池から1件(10~14歳)に報告がありました。ただ少数ではありますが、本年5月からは毎月報告があります。症例が年少児なのか、小学校高学年以上(DT対象児)かの確認する必要があると考えます。
10. ヘルパンギーナ : 報告数331件(前月比0.4、前年比2.2)と例年より高水準ですが8月をピークとして減少に転じています。天草 71件(定点あたり17.8)、山鹿28件(同14.0)、八代54件(同 13.5)が特に多いようです。全県からの報告があります。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数82件(前月比1.0、前年比0.1)と昨年の流行は減少してきたとはいえ、いまだ二桁の報告が続いています。水俣12件(定点あたり6.0)、天草19件(同4.8)が多いのですが、阿蘇を除く各地からの報告があります。2~5歳に多く見られ、VPDですので、積極的な接種を勧めます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 79 件(前月比 1.1、前年同月 1.0)、前月、前年同月ともにほとんど変化ありません。熊本 70 件、菊池 5 件、天草 4 件の報告です。年齢別では 15~69 歳台の発症が目立ちますが、なかでも 30~39 歳の発症が群を抜いています。乳幼児層にも感染拡大の注意が必要と思われる。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数67件(前月比1.1、前年比1.1)で、前月比、前年比とも増加しています。男女別は、男性に37件と多く見られました。年齢別は、男性は25~29歳に10件と多く、女性は20~29歳に18件と多く見られています。地区別は、熊本が43件と圧倒的に多く、次いで御船9件、有明6件、八代4件、菊池3件、宇城2件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数15件(前月比0.9、前年比0.9)で前月比、前年比とも減少しています。男女別は、女性に12件と多く見られました。年齢別は、男性は15~39歳に、女性は20~70歳以上に幅広く見られています。地区別は、熊本が6件と多く、次いで菊池、八代に各4件、宇城に1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数10件(前月比0.6、前年比1.1)で、前月比より減少、前年比より僅かに増加しています。男女別は、男性に7件と多く見られました。年齢別は、男性は25~29歳に3件と多く、女性は35~39歳に1件、45~49歳に2件見られました。地区別は、熊本9件と多く、その他は宇城1件でした。
4. 淋菌感染症 : 報告数12件(前月比0.6、前年比0.4)で、前月比、前年比とも著明に減少しています。男女別は、男性に8件と多く見られました。年齢別は、男性は15~44歳の中年以下に見られ、女性は15~19歳、25~29歳に各2件見られました。地区別は、熊本10件と多く、次いで八代、有明に各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数22件（前月比 1.2、前年同月比 1.2）で2ヶ月連続で増加しました。年齢別では、0歳2件、20歳台2件、40歳台1件、50歳代3件、60歳代4件、70歳以上が10件と幅広い年齢分布でした。地域別では、人吉4件（定点当たり4.0）、熊本11件（同2.2）と多くなっています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数4件（前月比 2.0、前年同月比 0.7）で減少傾向でした。0歳1件、1-4歳1件、70歳以上2件と乳幼児と高齢者で報告が見られています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数0件（前月、前年同月から増減なし）でした。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎： 報告数0件（前月から増減なし、前年同月から増減なし）でした。6月からの減少傾向が続いています。

2. 無菌性髄膜炎： 報告数4件（前月比 0.5、前年同月比 0.2）でした。前月より減少しました。地域別では、熊本4件と多くなっています。年齢別では、10-19歳3件、30歳台1件でした。

3. マイコプラズマ肺炎： 報告数12件（前月比 2.4、前年同月比 0.2）でした。昨年と比べより増加し要注意です。年齢別では、1-4歳3件、5-14歳5件、60歳代1件、70歳代3件と幅広い分布です。地域別では、熊本11件（定点当たり2.2）、水俣1件（同1.0）が多くなっています。

4. クラミジア肺炎： 報告数0件（前月から増減なし、前年同月から増減なし）でした。ここ1年で1件の報告と減少しています。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数0件（前比月 0.2、前年同月比 +1）で4月にピークとなりその後減少しています。

届け出対象感染症

1類感染症	： 報告はありませんでした。	
2類感染症	： 結核	22件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	7件
4類感染症	： レジオネラ症	3件
5類感染症	： カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1件
	： 侵襲性肺炎球菌感染症	2件
	： 梅毒	2件
	： 破傷風	1件